



特集1 座談会

エコ学区活動の
これまでとこれから

出席者

上高野学区(左京区)

上高野地域ごみ減量推進会議
会長 矢野 忠明 さん同左
副会長 山口 勝彦 さん

豊園学区(下京区)

豊園エコ推進委員会
副委員長 中村 章子 さん久我の杜学区自治連合会
会長 小石原 直樹 さん

桃山学区(伏見区)

桃山エコ推進委員会
委員長 大倉正暉 さん

京都市のエコ学区の取組が始まって9年目になり、各地域でエコ活動が展開されています。それぞれの地域で工夫を生かした取組が進められる一方、さまざまな悩みも…。今回、4地域のエコ活動のリーダーにお集まりいただき、お話を伺いました。

●日程:令和2年11月17日

●場所:京エコロジーセンター

※文中敬称略

01 学区の特徴は?

エコ学区サポートセンター(以下、サポセン):

本日はお集まりいただきありがとうございます。まず皆さんのお住まいの学区やグループについて教えてください。

矢野:上高野学区は国際会館付近から比叡山のふもとまでの広い地域です。上高野自治会のもとに、17の小集団活動と15の町内会で構成されています。「上高野地域ごみ減量推進会議(以下、ごみ減)」も小集団活動の1つで、7名の役員と15名の各町内ごみ減量委員でやっています。

中村:豊園学区は京都市の中心地、四条通の南側にあります。マンションが多く子どもの数も増えています。少年補導委員会のリーダーから「子どもからお年寄りまで幅広い世代でエコ活動をしよう」と呼びかけがあって、子育て世代のお母さんたちが集まりました。

小石原:久我の杜学区は運転免許試験場の近くにあり、元々は農村地帯でした。昭和50年代に

住宅が建ち人口が爆発的に増え、小学校が足りなくなって、平成4年に新しい学区として誕生しました。自治連合会がエコ学区推進委員を10名委嘱しています。

大倉:桃山学区は、北は伏見桃山城、南は宇治川、西は近鉄奈良線に囲まれた地域です。自治連合会はなく、有志による桃山エコ推進委員会を6年前に立ち上げました。役員は12名ですが、草の根活動にするために、約55の自治会・町内会から1名ずつエコ推進委員を出してくださいとお願いしています。

02 どうやったら進む? エコ活動

サポセン:上高野学区では、どのようなエコ活動をされていますか?

矢野:古紙のコミュニティ回収やてんぷら油回収、エコバスツアー等をしています。それから、毎年10月に上高野小学校で「ふれあいまつり」があるので、エコ学区ブースとして子どもが楽しめる発電体験やゲームをしたり、家庭の省エネ診断のコーナーを設けています。昨年度はプラスチックごみの勉強がしたいと思い、サポセンに講師を派遣してもらって学習会をしました。



▲多くの参加者でにぎわう「上高野ふれあいまつり」でプラスチックごみ学習会を実施(令和元年度)

サポセン:豊園学区は令和元年度に京都環境賞エコ学区賞を受賞されました。

中村:子どもが家族に話をしてエコが広がったといいなと思っています。今まで夏休みの子どもたちを対象に、要らなくなった布等を使った

「クールネックづくり」「リメイクうちわづくり」等を行いました。



▲豊園学区の「リメイクうちわづくり」。温暖化の原因やエアコンを使わない工夫も学んだ。(平成30年度)

サポセン:桃山学区は平成30年度に京都環境賞エコ学区賞を受賞されていますね。

大倉:ロケットストーブの製作普及、生ごみ堆肥講習会、小学校の環境出前授業等を6年間、児童館でのエコ教室を4年間続けています。ロケットストーブはアメリカで生まれた高効率の調理用ストーブで、廃棄されるオイル缶などを使って手づくりできます。学区の行事で調理や湯沸かしをしたり、他学区に頼まれて製作や実演をしに行くこともあります。

サポセン:久我の杜学区は、今年度からエコ学区活動を本格的に始めたそうですね。

小石原:10年前からふれあい夏祭りをやっている、今年度はコロナでできませんでしたが、毎年約3,000人が参加します。畑が多いので、5年前から夏祭りに合わせ朝市をやっているんですよ。今年度は、朝市の日に合わせて、生ごみ堆肥づくりの学習会をサポセンにやってもらいました。



▲久我の杜学区の朝市の会場で、ごみ減量と生ごみ堆肥の学習会を開催(令和2年度)

サボセン:学区でのエコ活動は、どうやってら進むのでしょうか。

山口:矢野会長の熱い思いが推進力ですね。私もその思いにひかれて、数年前からごみ減の役員をやらせてもらっています。

中村:私たちも、リーダーの熱心な呼びかけで、子育て世代の4人が集まりました。初めの頃はエコにも詳しくなかったんです。担い手である私たちが楽しめることでないと続かないので、難しいことではなく衣食住に関わることを中心に取り組んでいます。

大倉:1年目に小学校へ「環境教育をやりませんか?」と売り込みに行ったら、「出前授業をお願いします」と依頼が来たんです。次に、3年目に児童館にも行ったら、館長先生や職員さんが乗り気になってくださって、毎年エコ教室をさせてもらっています。学区内の施設等がメリットを感じて自主的になってくれると、いい感じに進みますね。



▲ももやま児童館エコ教室「ごみの一生」。バナナの皮に扮した子どもたちをミミズが分解(令和元年度)

小石原:うちはサボセンから何度も電話が来て(笑)。それでリーダーの人がやる気になってくれているんですよ。活動を盛んにするにはリーダーの育成が大事です。

(※1)マイクロプラスチック:5mm以下の微細なプラスチックごみ。漂流の過程で汚染物質を表面に吸着し、化学汚染物質が海洋生態系へ取り込まれる原因となる可能性がある。

03 エコ活動のお悩みは?



サボセン:皆さんが活動される中で、悩まれていることはありますか?

矢野:町内会加入率が下がっていますね。従来町の町内回覧版では情報が届かないので、「京都市広報板」を活用し、町内会に入っていない人に情報を届けるようにしました。

小石原:うちの学区も、家が増えても町内会は減っていて、自治連合会からの働きかけが難しくなっています。

中村:エコ推進委員の人数を増やしたいのですが、子育て世代は働いている方も多く、なかなか参加してもらえないんです。

大倉:悩みはいっぱいあります。行事に来てくれる人は多いけれど、地球レベルの環境問題や、日々の生活でのCO₂削減・ごみ減量につなげられているかどうか…。

サボセン:活動メンバーを増やすことや、取組の効果を高めることが、なかなか難しいようですね。他学区の活動を知る機会はあまりないと思うのですが、皆さんこの機会に聞いてみたいことはありますか?

大倉:上高野学区でプラごみ学習会をされたとのことですが、分別のことですか?

矢野:いえ、家庭での分別は進んでいると思うのですが、気になるのは、野外に散乱するプラごみ。私たちの地域では、散乱ごみは地域の真ん中を流れる高野川に行き、ゆくゆくは海に流れていき、海をマイクロプラスチック(※1)で汚染してしまう。昨年度の学習会をきっかけに、プラごみ削減を訴えるチラシを配ったり、役員に呼びかけたりして、地蔵盆や運動会でプラごみ削減をしてくれた町内会がありました。

小石原:桃山学区のロケットストーブでは何を燃やすのですか?煙は出ませんか?

大倉:薪を燃やすので、化石燃料と違いCO₂の発生が±0になりますし、木っ端や剪定ごみ等を燃料にできます。よく乾燥した薪を適量燃やせば、煙はあまり出ません。今度、他学区の朝市に呼ばれて、ロケットストーブで焼き芋をする予定なんです。

サボセン:他学区と交流があるんですね。

中村:サボセン主催の「エコ学区担い手セミナー」で梅運学区(下京区)の方と知り合い、学校跡地でされている落葉堆肥の菜園を見学させてもらいました。それが今年度の、学校の雑草の堆肥化につながりました。

大倉:いろいろな学区にロケットストーブをつくりに行っていますし、今年度は生協の自主グループに、生ごみ堆肥のアドバイザーとして関わっています。僕は淀や久我の野菜を買って食べていますが、地産地消も交流のきっかけになりますよね。地域外とのつながりから学ぶことは多いです。

サボセン:最近は個別の価値観で生活するのが普通になり、地域とは最低限の関わりしか持たない人が増えています。そうした中、学区をこえて、環境地域活動に関心をもつ人たちが交流するのもよいですね。

04 これからのエコ学区活動

サボセン:今後、エコ学区活動をどのようにしていきたいかお聞かせください。

中村:親世代に、どうやって活動内容を知ってもらうかが課題です。毎回ではなく単発でもいいから参加していただいて、エコを拡げていきたいです。

小石原:子ども向けの行事は、回覧板ではなく掲示板で知らせるようにしています。そうやって町内会に入っていない人にも、どんどん情報を届けていきたいですね。

矢野:私たちも小学校に協力してもらって、子どもを通じて保護者にプリントを配っています。

大倉:学区内に環境家計簿(※2)をつけ続けているグループがあって、そのグループの平均CO₂排出量は、京都市平均の半分だそうです。このように、エコ学区活動が各家庭のライフスタイルの変化につながったとき、目標を達成するんだと思います。

山口:「CO₂やごみを減らす」という理念を、1人1人にどう意識づけていくかが課題ですね。今日のお話を聞いていて、学区のクリーンキャンペーンが終わったら焼き芋をするような活動もいいと思いました。

サボセン:楽しくエコ活動をしていることを伝えれば、関心をもつ人が増えるかもしれませんね。今日は興味深いお話を聞かせていただき、ありがとうございました!



▲座談会終了後は、桃山エコ推進委員会作成のロケットストーブを囲んで、話が盛り上がりしました。

(※2)環境家計簿:家庭で使用する電気・ガス・灯油・ガソリン等の使用量から、CO₂排出量を計算し記録することにより、環境にやさしいライフスタイルを習慣づける取組。



特集2 コロナ禍で工夫して進めた

学区のエコ活動を 一挙紹介！

令和2年度は、コロナウイルス感染拡大の影響で、地域活動が大きく制限された年でした。そんな中でも、地域内の人と人のつながりを失わないために、工夫を重ねて実施した活動事例があります。京都市内の各地域で行われた取組を紹介します。

元町学区 (北区)

フードドライブで食品ロス削減 【元町地域ごみ減量推進会議】

平成30年度より、小学校の運動会で、家庭から不要食品を回収する「フードドライブ」に取り組んでいます。今年はコロナ禍でしたが、屋外・マスク着用・三密回避にて実施。昨年度より参加者数と食品回収量が増えました！



▲運動会でフードドライブを実施し、児童・保護者・地域住民にエコを発信することができました。

動画学習会&紙上元町まつり

【元町社会福祉協議会】

令和元年度より、子ども向けにプラスチックごみ学習会を開催。今年は、クイズ動画とオンラインアンケートで実施しました。また、毎夏恒例の「元町まつり」は、動画を収録し、チラシにQRコードを載せ、紙上開催しました。



▲夏の地域行事「元町まつり」を紙上開催。クイズに引換券に楽しさ満載！

乾隆学区 (上京区)

自宅でエコライフチェック 【乾隆自治連合会】

コロナ禍で集まれないため、自宅でできるエコライフチェックアンケートを配布。各種団体メンバー、幼稚園PTA、学区内に立地する企業の社員が参加し、各家庭で日々の生活をふりかえりました。



▲学区内の各家庭で、冷蔵庫、エアコン、シャワー、車などの使い方をチェック！

緑のカーテンにハートのメッセージ

【乾隆地域女性会】

令和元年度に開始した「洛いもカーテン」を、今年は地域内の「掲示板」代わりに活用。ハート型のメッセージカードに「乾隆学区の好きなところ」「やっているエコ活動」などを書いて吊るし、住民交流を図りました。



▲対面で会えない中でも、エコ啓発と住民交流を同時に行うことができました。

中立学区 (上京区)

コロナ物品のシェアシステム

【中立住民福祉協議会】

品薄だった消毒液や非接触型体温計を購入し、学区でイベントを行う各種団体に無償貸出を行っています。今後頻繁に使うかわからない物品を個別の団体で購入・保管する「ムダ」を省くことができました。



▲コロナ禍で行われた堀川の清掃。消毒液等のシェアシステムが役立ちました。

銅駝学区 (中京区)

ホームページでエコ発信

【銅駝自治連合会】

自治連合会のホームページを開設し、エコ学区ページを設け、エコ活動を発信しました。主要な行事などが中止になる中でも、取組に関心を持っていただき、高瀬川清掃などの参加者を増やしたいと思っています。



▲高瀬川ホテル保全活動やライトダウンキャンペーンなど、今までの取組を紹介。

豊園学区 (下京区)

自宅で楽しくエコライフ

【豊園エコ推進委員会】

大人数が集まる活動ができないので、少人数や自宅でできるエコ活動をすることにしました。台所から出た生ごみや、学区の草刈りで出た雑草・落ち葉を堆肥化し、野菜づくりなどに生かす活動に取り組みました。



▲小学校の草刈りで、雑草や落ち葉を堆肥容器に詰め、ごみを減量しました。

京北学区 (右京区)

子どもたちと廃校に花畑を

【山国地域ごみ減量推進会議】

一斉休校になった子どもたちの提案で、旧・京北第二小学校跡地に花壇を整備しました。地域住民に回覧で「生ごみ回収」を呼びかけ、集めた生ごみを堆肥化し、花壇づくりと家庭ごみの減量に取り組んでいます。



▲旧京北第二小に生ごみ回収ボックスを設置し、住民たちが持ち込んでいます。

久我学区 (伏見区)

「洛いも」で緑のカーテン

【久我社会福祉協議会】

年間90回の活動が休止になりましたが、家庭で取り組む「洛いも栽培」に40名参加。大きな葉で日光を遮ることで、夏のエアコンの使用を減らし、朝夕水やりをすることで、健康増進にもつながっています。



▲発育状況をメールやLINEでやりとりし、住民同士の交流も進みました。

ウィズコロナの中でも、たくさんの素敵なエコ地域活動が行われました！